



JAPHNEI

一般社団法人 全国保健師教育機関協議会

会長ご挨拶

一般社団法人全国保健師教育機関協議会会長
村嶋幸代

着目点

2014年度も慌ただしく過ぎていった様な気がしません。今回は年度末にあたり今年度内の3つ委員会活動と1つのブロックの活動報告を掲載します。

目次:

会長ご挨拶	1
国家試験対策委員会	2
保健師教育検討委員会	3
教員研修員委員会	4
九州ブロック研修会	5
編集後記	5

平成26年度も残り1週間となり、お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

桜の便りが聞かれる一方で、雪の話題もあり、日本列島は南北に長いということを実感しています。間もなく新年度ですね。入学式には、全保教の名前で「ご入学お祝い電報」が打てますので、どうぞご活用ください。

第101回の保健師国家試験の結果が出ましたね。今年は、下記の結果でした。

出願者 16,892人に対して、受験者 16,622人、合格者は 16,517人。合格率：99.4%。

うち新卒者は、各々 15,614人、15,440人、15,381人 で、合格率 99.6%。

全保教では、国家試験対策委員会委員が約3日間、東大にこもって作業をしました。その結果を意見書にまとめ、3月2日朝に、城島委員長と野村副会長で、厚生労働省看護課に届けました。詳しくは、国家試験対策委員会の城島委員長のご報告にあるとおりです。全体してタクソノミーレベルを上げること、選択肢のブラッシュアップが必要なこと、等についてエビデンスを添えて提言しました。午前の問題3に複数の正解があることも指摘しております。それが、採点に反映されているのは、皆様お気づきのことと存じます。修正イーベル法も、いくつかの学校で実施していたいています。

大変パワフルに活動している国家試験対策委員会ですが、メンバーが入れ

替わる中で、問題作成に対する感度や能力を、如何に向上させ、平準化していくかという課題も見えてきました。かつて、科研費の中で取り組んだ時に、格段に技量が上がった方々が今まで支えていらしたわけですが、「国家試験問題を作成するのは、教育内容を吟味することに通じる」ということを考慮し、新たに光を当てる必要性も感じています。

「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会」の中間報告が、昨年12月に厚生労働省から発出されたこと、その中で、「研修を進める上では、各県の看護系大学の役割も大きい」と期待されていることについては、前号でご報告した通りです。平成27年末に向けて、最終報告をするわけですが、その中に盛り込みたいということで、厚生労働省から、「自治体等の現任保健師の人材育成に対する連携の実態」を委託されました。役員会で協議し、岡本・野村両副会長と鈴木良美理事が調査票を作成し、会員校の皆様へ3月12日付で配信いたしました。3月27日が締切です。ご協力の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

新しい年度が始まると、直ぐに要望書を考える時期になります。保健師教育にとって、今、何を要望していくべきかについて、お気づきの点は、事務局にお知らせいただけますようお願いいたします。雇用保険法の改正に伴う教育訓練給付金の適用範囲に、修士課程の保健師教育も入れてもらえるようには要望したいと思います。

全保教は、情報を会員校の皆様にごできるだけ速やかに伝え、皆様からも情報を得て、タイムリーに行動していきます。新しい年度が、皆様と保健師教育にとって良い年になりますようお願いいたします。どうぞ宜しくお願いします。



特集 2014年度の活動報告

今年度も3月となりました。そこで、総会等で委員会の活動報告は行われていますが、結果を得られるまでのプロセスも含めた報告を、国家試験対策委員会、保健師教育検討委員会、教員研修委員会の3つにお願いしました。

各ブロックにおいても活発に活動されていますが、九州ブロックでは、実習を担当して下さる現場の方達と一緒に研修会を行ったとのことですので、その報告を掲載することにしました。

国家試験対策委員会

○城島哲子（委員長） 嶋澤順子 中谷芳子 波川京子 播本雅津子 中尾八重子
酒井陽子（外部委員） 野村美千江（副会長・オブザーバー）

国家試験対策委員会では国家試験の質の向上の推進を目標に委員会活動を行ってきました。まず、WEB登録問題作成の「でるかも作戦」では今年の「でるかも作戦」は各ブロック14校から27問題が集まりました（表1参照）。11月の集中合宿を中心に4回のブラッシュアップ作業を繰り返し、約30問題を作成しています。協力校には完成した全問題をフィードバックできるように、委員が作業を続けておりますので今しばらくお待ちください。

ブラッシュアップは委員会“新人期”ではコツがつかめず訳の分からないまま作業を進めていますが、“中堅期”になると単純な問題に1行ほどの状況設定を加えることで判断プロセスを踏ませ「タキノミーレベルを上げる」方法や、単純でナンセンスな選択肢を「すべて対等の重みを持ち、同一範疇の事象である4つの選択肢」に書き換えたりできるようになってきます。さらに上級者では「受験生の2%が選択するような誤答肢（魅惑肢）」を提案できるように…。実は、

委員会のなかでこのような助言をくれていたのは酒井陽子先生でした。その酒井先生がこの3月で定年となり外部委員も引退されることとなります。7年間、酒井先生の力無くして国家試験対策は成り立ちませんでした。心から感謝を申し上げます（いつでも戻ってきてください!）

第101回保健師国家試験に係る全問調査では、会員校のうち受験生のいる168校から61校（36%）の回答が得られました。入試や論文審査の時期と重なる多忙な時期に多くのご協力をいただいたことに感謝いたします。（次ページ表2参照）

東京大学地域看護学教室の協力の下、2月27日から3月1日まで委員会で検討作業を行い厚生労働省への意見書を次のようにまとめました。午前問題3、午後問題16を複数の正答があるため不適切とした。タキノミー分析ではⅠ型41問（37%）、Ⅰ´型30問（27%）、Ⅱ型34問3（1%）、Ⅲ型5問（5%）であり第100回と比べレベルが上がっているが、Ⅰ・Ⅰ´が全体の64.5%を占めることについて改善が必要。出題傾向では、優先順位を問う設問であるのに選択肢が○×（単純真偽形式）の問題が10問あり、うち8問が状況設定問題であったために全体の難易度を下げる結果となった。意見書の一部は厚労省のK・V部会でも採択されたと思われま

表1 でるかも作戦

協力校14校から27問

北海道、東北	: 2校/4問題
関東、甲信越	: 1校/3問題
東海、北陸、近畿	: 4校/6問題
中国、四国	: 4校/7問題
九州	: 3校/7問題

す。3月25日の厚労省発表で午前問3は複数正解になっていました。

さて、“できるかも作戦”は平成20年にスタートし7年目を迎えました。教員の国試問題作成に対する積極的参加とスキルアップを目指した研修会も積み重ねてきました。現在では応募問題も安定した数が得られるようになり、最近の傾向では疫学・保健統計や産業保健、保健医療福祉行政論の問題も集まっています。反面、委員会の弱点も見えてきました。2年ごとに理事が交代するために中堅期の委員が育たないことが悩みです。また、一定の成果を上げた活動から新しい課題に向けて、委員会活動をシフトチェンジする時期に来ているのではと感じていま

す。そこでいくつかの案を考えました。①北海道・東北ブロックで行っている国家試験直後の検討会活動を全国に広げる ②できるかも作戦をブロック活動や会員校の活動に下ろす準備 ③WEB登録問題の共有化により積極的に活用できる利便性を図ると共に、利用者による再ブラッシュアップができる仕組みづくり ④若い教員を国試対策活動に取り込みスキルを伝承する仕組みづくり、などです。新しい活動に一步踏み出せるようこれからも会員校のご協力をお願いいたします。

表2 第101回保健師国家試験全問調査の回答状況

(H26年12月現在会員校177校の内受験生を出す学校168校)

回答：61校 (36%)

〔学校区分〕 大学53 (選択制あり28、なし31)、短大3、養成校8

〔ブロック〕 北海道・東北13、関東・甲信越20、東海・北陸・近畿15 中国・四国10、九州7

保健師教育検討委員会

○鳩野洋子、船橋香諸里、上野昌江、工藤恵子、斉藤三和、矢島正榮、鈴木知代（外部委員）
山口忍（外部委員）岡本玲子（副会長・オブザーバー）

保健師教育検討委員会は、26年度は実習をテーマに活動に取り組んでいます。平成27年度は、多くの教育機関で5単位実習が本格始動する年です。その年を迎えるにあたり、新たな実習要項づくり等に取り組んでおられる機関も多いのではないのでしょうか。実習要項の作成は、それぞれの教育機関の目指すところを示すものでもあるため、この作成には多大な労力が必要とされます。考えはあっても自分たちが意図するところを表す言葉をゼロからつむぎだすことは簡単ではありません。また、実習で強調したい部分が機関によって異なるのは当然としても、保健師のライセンスの質を保証する点からは、実習させる範囲やレベルも気にかかるところです。

このような状況を考え、委員会では公衆衛生看護技術の習得部分に焦点を当て、その習得に向けた実習方法のひな形を提示することを試みました。ひな形があればそれと照らして考えられるため、考えを整理することも容易になると思います。また、実習方法について他機関と具体的に情報交換をする機会はなかなか得られにくいと思いますが、その点も少しは解消されるのではないかと考えました。

作成にあたって考慮したのは、到達させたいレベルの標準をどうするかです。これには一昨年、昨年と2年をかけて作成されたミニマム・リクワイアメンツ全国保健師教育機関協議会版(2014)を活用しました。この中では、保健師の質保証の観点からの求める行動目標とそのレベルとこれをふまえた公衆衛生看護学実習における必須体験項目が提示されています。必須体験項目は技術領域と、専門領域(母子保健等)、活動領域(保健所等)で整理させていますが、そのうちの技術領域の項目(家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、事例検討、地域診断、事業計画立案・評価、地区管理、組織活動、連携調整会議、健康危機管理)に関し、当該項目に関する実習目標、行動目



標や、実習方法、評価について全国から集まった委員で検討しました。このうち実習方法については、①実習の対象選定、②学生が行う事前準備、③実施のそれぞれの段階を考えました。また、実習はそれだけで成立するものではなく、事前に行われる講義や演習科目とも連動しているため、それらの中で到達しておくべき事項もあわせて整理しました。

検討する中で感じたのは、「この位は保健師学生として到達させたい」というレベルや、この部分は大切に学ばせたいという点については、MRを活用したこともあるとは思いますが、委員の働く地域等が異なっても大きな違いは生じない、ということでした。これに加え、会員校の皆様に意見聴取調査をさせていただき、ご意見をふまえた修正をかけて作成したことで、一定の汎用性があるものができたのではないかと考えています。

検討結果は、「実践力向上を目指した公衆衛生看護学実習の展開—保健師教育におけるミニマム・リクワイアメ

ンツ全国保健師教育機関協議会版(2014)を活用して—」という報告書にまとめ、6月の総会時に皆様に配付させていただく予定です。

委員全員の日程があう日がなかなかなく、ほとんどの委員会が日曜日開催で、しかも会議時間の確保のために始発便で上京し、夕方戻って月曜から仕事、必ず宿題のおまけつき、というなかなか体にこたえる状況の中で作成した報告書です。今後の教育の中でご活用いただけることを委員一同願っております。

なお、最後になりましたが、12月の忙しい時期に意見聴取調査にご回答いただいた皆様、委員会への暖かいコメントを自由記載欄に書いて下さった皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

教員研修委員会

○安斎由貴子 中尾八重子、播本雅津子、福島道子、和泉京子（外部委員）、
都築千景（外部委員）、岡本玲子（副会長・オブザーバー）

教員研修委員会の活動紹介

教員研修委員会では、「夏季教員研修会と秋季教員研修会の企画・運営」、「キャリアラダーの原案を作成」を目標に活動してきました。

【教員研修会】

今年度の夏季教員研修会は、8月21日(木)10:00~16:30、「公衆衛生看護学をコアとした保健師教育の充実」をテーマに、フォレスト仙台（宮城県仙台市）で開催しました。参加者は会員校174人、非会員校15名でした。午後は同時に3分科会で行うなど、従来とは異なる企画で開催しました。詳細については、前回のニュースレター2014年度版第1巻第1号をご覧ください。アンケートは119人からご協力を得ました。研究会の企画・運営に関するすべての項目について90%以上が「適当」と回答し、自由記述については、「良かった」「有意義だった」というプログラムへの評価をいただきました。

秋季教員研修会は、11月4日(火)13:30~17:40、栃木県青年会館・コンセーレ（宇都宮市）で開催しました。「実践力を重視し、着実に保健師教育の質向上を図ろう」というテーマで開催し、会員校96名、非会員校3名の参加がありました。

教育講演として、座長 福島道子理事のもと、「思

春期の性を支える健康教育の方法—共感・共有で仲間の自己決定に寄りそうピアカウンセリング—」をテーマに自治医科大学 高村寿子名誉教授、「栃木県における思春期保健対策 —ヘルス部門・教育部門・NGOの連携の基に—」をテーマに栃木県保健福祉部こども政策課 伊東利枝課長補佐による講演を行いました。

その後、教員研修委員会による「保健師養成に携わる教員のキャリア開発」をテーマに行いました。まず、「キャリア開発とその潮流」をテーマに、吉田澄恵 准教授（東京女子医科大学）による講演をいただき、その後グループワークを行いました。

アンケートは66人から回答を得て、研修会の企画・運営に関する項目では、日程については92%が「適当」、時間配分は85%が「適当」、テーマについては86%が「適当」、講師については83%が「適当」、運営方法は91%が「適当」と回答をいただきました。

平成27年度の夏季教員研修会は8月28日、場所は「ホテル ルブラ山王」（名古屋市千種区覚王山通8-18）です。秋季教員研修会は11月3日午後、場所は「長崎県総合福祉センター」です。多くのご参加をお待ちしております。

【教員研修会の企画・運営マニュアル】

教員研修会は、夏季がブロック毎の輪番制、秋季

は日本公衆衛生学会開催県の大学が担当して開催してきました。具体的なマニュアルがなく、担当になった学校が、何を、どう準備したら良いかから検討するという現状があったため、「教員研修会の企画・運営マニュアル」を作成しています。お役に立てれば幸いです。

【公衆衛生看護学教員のキャリアラダー】

教員研修委員会では、「公衆衛生看護学教員のキャリアラダー」を検討しています。まず、秋季教員研修会で、保健師教育に関わる教員のキャリアについて考えまし

た。それらの結果を基に、現在、キャリアラダーを検討しています。皆様にご提示できるまでにはもう少しばらかかりそうですが、公衆衛生看護学教員としてどのようにキャリアアップしていったらよいか、そのために全国保健師教育機関協議会では、どのような研修を行っていったらよいか、皆様と共に、検討していきたいと考えております。

全国保健師教育機関協議会九州ブロック研修会報告

熊本保健科学大学 香山芳子
(九州ブロック理事)

九州ブロックでは、活動方針を「保健師教育における全国的な流れをふまえ、全国の新しい情報を共有するとともに、ブロック間での情報交換を活発に行い、保健師教育の質の向上に努める。」とし、年1回の定例会と年2回の研修会を実施しています。

今年度の秋季研修会は平成26年12月19日(金)に講演(1)「保健師教育におけるミニマム・リクワイアメンツを活かした教育実践」講師 岡山大学大学院岡本玲子 教授

(2)「新カリキュラムに対応した臨地実習の内容と体制のあり方」講師は福岡県糸島保健福祉事務所 鎌田久美子副所長に依頼し実施しました。

参加者は会員校と、熊本県と熊本市へ依頼し熊本県内の行政実習指導者(保健所・市町村・熊本市)へも周知しました。

このような計画をした背景には、新カリキュラムに対応した実習指導をどのようにしたら良いのかなどの、日頃の実習指導者の発言などから、教員側が実習現場でどのような実習、指導を期待しているか、具体的に提示する必要性を痛感したからです。

講演の内容は、「保健師教育におけるミニマム・リクワイアメンツを活かした教育実践」では、ミニマム・リ

クワイメンツの必要性、保健師教育課程の規定とMRの作成過程、MRの内容、MRの活用。

「新カリキュラムに対応した臨地実習の内容と体制のあり方」では、保健師教育における臨地実習のあり方に関する調査研究の経過(地域保健総合推進事業調査研究より)、新カリキュラムに対応した公衆衛生看護学実習における福岡県の取り組み紹介でした。

保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度を活用し、実習現場での学習方法、指導方法(教員の役割・指導者の役割)と例をあげ具体的な内容でした。

参加者は会員校18名、熊本県庁・県保健所保健師7名、県内市町村保健師17名の42名でした。

質の高い実習を目指すためには、保健師養成校と行政等実習受入側との協働の必要性が再確認されました。今回の研修でMRを活かした実習、新カリキュラムに対応した実習実現のためには、行政等実習現場の指導者への研修体制を整備していくことが大切であると痛感しました。

.....
編集後記：各員会とも熱心に土日や泊まり込みで活動されているとのこと、保健師教育をよくしたいというこれらの熱心さに支えられて全国保健師協議会の活動がなりたっていると思うと感謝です。6月6日(土)には総会が予定されています。多くの皆様にお会いできるのを楽しみにしています。広報委員の役割をとっていただいた香山委員の任期はこの3月までとなります。一緒に活動させていただきありがとうございました。
.....

(広報委員会・金子仁子委員長)